国立国際医療センターでの無痛分娩を

希望される方への説明文書・同意書（産婦人科編）

当院では、経産婦さんでご希望された方を対象とし、麻酔科医師と連携して主に硬膜外麻酔を用いて、計画分娩による無痛分娩を行っています。説明文書をお読みになった上で希望される方は担当医にお申し出下さい。

【無痛分娩の申し込みから実施までの流れ】

① 無痛分娩を希望される場合には、麻酔科医の説明動画を見た上で、原則として**妊娠 34 週頃まで**に無痛分娩申込書を担当医または外来助産師に提出してください。

② 外来での診察所見や病棟の空き具合なども考慮した上で、**妊娠 38～39 週を目安に計画分娩の日程を決定**します。計画分娩可能な曜日は**平日の月曜日、水曜日、木曜日**です。**日程は産科と麻酔科とで相談の上決めますので、希望日の指定は受けられません。**

③ **妊娠 36 週前後の妊婦健診時に貧血検査と合わせて血液凝固検査（自費）の採血を受けて頂き、**麻酔が可能かどうかを判断します

④ **妊娠 37 週前後**に助産師外来での健診にて、麻酔時の体位の取り方や麻酔中の注意事項についての指導を受けて頂きます。

⑤ 計画分娩予定日の前日に入院し、必要に応じて子宮口を拡張する処置を行います。

⑥ 計画分娩当日は、午前 7 時頃から胎児心拍陣痛モニターを装着した上で子宮収縮薬を点滴にて投与開始します。午前 9 時頃より麻酔担当医により硬膜外カテーテルを留置し、無痛分娩開始に向けて準備を行います。痛みが出現した時点で硬膜外カテーテルから麻酔薬の投与を開始します。

【ご注意いただきたい事項等】

① 希望されても合併症のために無痛分娩の対象外と判断される場合があります。

② 無痛分娩の費用は、**通常の分娩費用＋150,000 円**となります。

③ 無痛分娩開始後に母子の状態から帝王切開が必要になった場合も、無痛分娩加算（150,000 円）は発生します。

④ 計画分娩予定日より前に自然陣痛発来や破水に至った場合は麻酔科医師との連携が困難なため無痛分娩を実施できません。

⑤　当院の無痛分娩は硬膜外麻酔（場合により脊椎麻酔）を用いて痛みを軽減するプロセスを意味します。最大の痛みを 10、全く痛みがない状態を 0 として 10 段階評価を行い、3 未満の痛みに軽減することを目的としています。痛みの感じ方は人によって異なりますので、痛みが完全になくならない場合もあることをご理解下さい。

⑥　麻酔後も運動機能は保持されますので、ご自身で「いきむ」ことは可能ですが、麻酔の効果により「いきむ」タイミングがわかりにくくなり、十分な娩出力が得られなくなる場合があります。そのため無痛分娩では、娩出時に「吸引分娩」や「鉗子分娩」となる可能性が高まる傾向にあります。当院では陣痛に合わせた「いきみ方」を習得して頂くために、事前に助産師外来で指導を受けて頂きます。なお、硬膜外麻酔分娩の導入が帝王切開率を上昇させることはないとされております。

⑦　子宮収縮薬への反応は個人差が大きいので、少量でも過強陣痛になる場合や極量まで用いても陣痛が始まらない場合があります。陣痛誘発・促進を行う際には常時胎児心拍陣痛モニターを装着します。子宮収縮薬に反応しない場合は、日をあらためて分娩誘発を行う場合があります。

⑧　分娩中に児心音低下など胎児機能不全が疑われる場合には、無痛分娩を中止し、児の安全を優先します。

【合併症および有害事象】

硬膜外麻酔を用いた計画分娩では、分娩誘発や硬膜外麻酔等に伴う合併症が生じることがあります。この点を十分にご理解の上、無痛分娩を希望するか否かを決めてください。分娩誘発に伴う合併症および有害事象については「分娩誘発同意書」を、硬膜外麻酔等に伴う合併症については麻酔科による「無痛分娩説明・同意書」をご参照下さい。ご不明な点がありましたら、担当医または外来助産師までお問い合わせ下さい。

なお、いかなる処置にも一定の確率で合併症や副反応のリスクが伴います。合併症や副反応などが発生したときは、速やかに適切な処置を行いますが、治療費は保険診療による患者負担の範囲でお支払い頂くことをご了承ください。また、重篤な合併症を生じた症例ならびに全般的な無痛分娩統計については、個人を特定できる情報を除いたデータを関連学会に報告いたします。

不明な点がありましたら、説明した医師までご連絡下さい。

【連絡先】〒162-8655　東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療センター　産婦人科
電話：03-3202-7181（代）

無痛分娩に関する同意書（産婦人科）

「国立国際医療センターでの分娩を希望される方への説明文書を読み，理解した上で、無痛分娩を申し込みます。

① 国立国際医療センターで実施する無痛分娩実施の概要について
② 無痛分娩予定前に陣痛が発来したりや破水した場合は無痛分娩を実施できないこと
③ 無痛分娩開始後に母子の状態により帝王切開が必要になる場合も、無痛分娩加算（150,000 円）が発生すること
④ 無痛分娩を実施しても完全に痛みがなくならない場合があること
⑤ 胎児機能不全が疑われる場合は、児の安全が優先されること
⑥ 分娩時に鉗子分娩、吸引分娩が必要となる可能性が高まること

国立国際医療センター　病院長　殿

同意　　年　　月　　日

分娩予定日　　年　　月　　日

妊婦氏名（署名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

配偶者氏名（署名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

説明年月日　　年　　月　　日

説明医師（署名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿